

# 「市民協働による学び支援推進事業と学校支援活動」

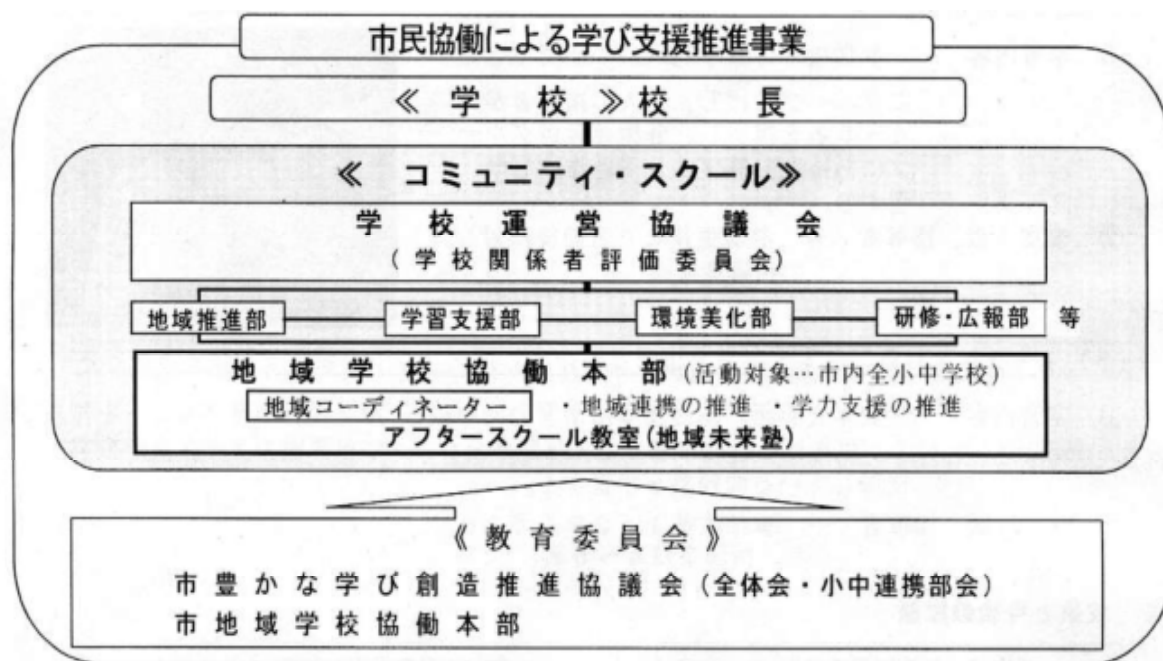
－アフタースクール教室(地域未来塾)を通じた学び支援－

北 名 古 屋 市

## 1 事業の概要・ねらい

北名古屋市は、市民が主役となって豊かな暮らしを目指す「市民協働のまちづくり」を推進しており、その担い手の育成や協働環境の整備などの施策が様々展開されている。その中核として、「学校運営協議会制度」と「学校支援地域本部（現地域学校協働本部）」を平成24年に同時に導入し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの生きぬく力と学力の向上を目指し、学び支援事業の推進を図っている。

その中でも特に学習が遅れがちな生徒に焦点をあて、「アフタースクール教室（地域未来塾）」を、地域力を活用する方向で展開し、学習習慣の確立と基礎学力の定着に向けて、以下の実践を推進した。



## 2 事業の実際 [アフタースクール教室(地域未来塾)]

### (1) アフタースクール教室のねらい

学習が遅れがちな中学生を対象に、学びの場を設けることにより、生徒自身が自らつまずきに気づき、主体的に学ぼうとする姿勢をはぐくみ、基礎基本の定着を図る。

### (2) 実施校区

市内6中学校区

師勝中学校区

西春中学校区

白木中学校区

訓原中学校区

熊野中学校区

天神中学校区

### (3) 会場

各中学校の空き教室 または 図書室・会議室等

### (4) 実施日・実施回数

学校によって異なるが主に次の時間を活用する。

○放課後（特に部活動がない日） ○土曜日

○長期休業中 \*年間平均20回～30回ほど実施

### (5) 指導者

○ 北名古屋市地域学校協働本部に登録されている学生や地域ボランティア

○ 教員OB（教員免許保持者）等



## (6) コーディネーターの役割

- 地域学校協働本部の統括コーディネーターと各学校の地域コーディネーターが、学校や生徒の実情を捉え、学校の先生や学校教育課と連携して地域人材の発掘をする。また、学校運営協議会でもアフタースクール教室を議題として取り上げ、地域人材の情報網を構築する。

## 3 アフタースクール教室（地域未来塾）の具体例

### (1) 3年生対象に、自分が不安を感じている教科の学習を行い、それを支援するケース

- ① 学習内容 … 授業で使用している問題集、家庭学習用の問題集を持参し、指導者に質問しながら自学自習する。
- ② 参加人数、指導者 … 参加生徒20名前後に対して、指導者3名。

### (2) 1年生対象に、教科を数学に絞り、つまずいたところから徹底して復習するケース

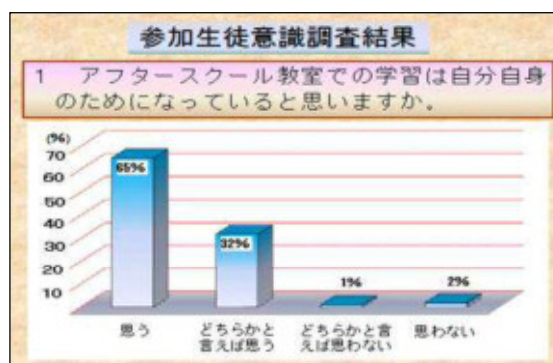
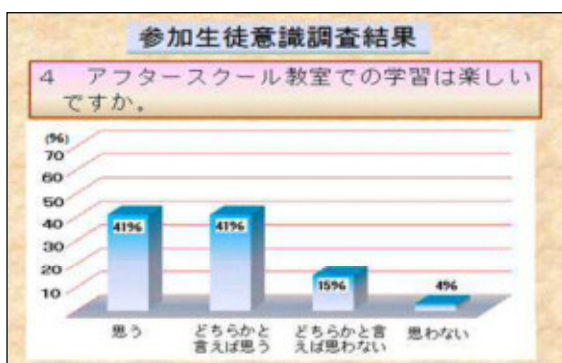
- ① 学習内容 … 参加生徒の数学(算数)の能力でさらにグループ分けし、一人の指導者が4～5名を担当し、各指導者がグループにあった計算プリントを作成し学習する。
- ② 参加人数、指導者 … 参加生徒20名前後に対して指導者4名。



### (3) 1・2年生対象に、指導者が作成したプリントを使って、数学・英語を学習するケース

- ① 学習内容 … 数学と英語の基礎基本習得に学習の的を絞る。指導者が学習プリントを作成し、生徒はそれを学習する。時間が余れば、学年課題のテキストや授業で使用している問題集を学習する。
- ② 参加人数、指導者 … 参加生徒1・2年生で20名。指導者は4～5名。

## 4 成果と今後の課題



「すべての子どもに手を差し伸べよう」と、学びの場を設けて6年が経過しようとしている。全参加者130名への意識調査でも、自分自身のためになっていると感じている生徒が97%に及ぶなど、学びの裾野は着実に広がっている。

アフタースクール教室は、参加する生徒に「わかる」を実感させる場である。今勉強していることがわかれば、学習が楽しくなる。楽しければもう少し勉強してみようと思う。わかる部分が出てくるからこそ、わからない点に気づき質問が出る。本教室は、そんな体験の積み重ねであるし、そんな地道な努力の継続である。

今後も、コーディネーターと学校、また市教育委員会がそれぞれの役割を果たし、一人でも多くの子どもたちの笑顔が見られる実践を続けていきたいと考えている。